

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270101052		
法人名	株式会社 角八雲園		
事業所名	グループホーム ウェル・アイ		
所在地	島根県松江市山代町421-1		
自己評価作成日	平成27年12月20日	評価結果市町村受理日	平成28年3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 x.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=327

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	平成28年2月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『安心と尊厳のある暮らし』を理念に掲げ、笑顔で寄り添う事を大切にしています。重度化が進みほとんどベット上で生活をされている方でも、できるだけ食堂で食事をして頂けるよう支え、お元気な方には持てる力に応じたリアリティーオリエンテーションや家事の協働、ミニレク等、認知症緩和に向けた取り組みを行っています。生活に張りを持たせるために、季節の行事を取り入れたり、地域のボランティア様の協力を得ながら習字の会や歌の会、フォークダンスの集いを開き、近隣の方や他施設からのお客様も一緒に楽しんで頂いています。また、福祉人材の確保につながる事を願いつつ地域貢献の一端として中学生、高校生の福祉体験学習や専門学校の実習などを積極的に受け入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設以来10年が経過し利用者の重度化に直面しているが、どんな状態の人にも理念に沿った支援をしたいと職員は笑顔で寄り添い、安心して毎日が過ごせるように支援している。ボランティアの来訪がある時は地域の人にも声を掛け一緒に習字を楽しんだり、夏祭りにはバザーの品を持参する人もあり地域の人との交流を通し利用者の生活を支えている。地域の認知症専門施設として社会貢献することを心がけ、研修生や実習生の受け入れを積極的に行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「安心と尊厳のある暮らし」を理念に掲げ、職員は理解、共有し、日々のケアに生かしている。しかし地域密着型サービスを踏まえているのかと言うところに疑問を感じているものもある。再検討したい。	理念にある「尊厳のある暮らし」とはどのようなことなのか、具体的な支援の方法を職員全員で話し合い、理解し、共有して実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所の経営者が町内会の一員である。研修会のご案内や夏祭り、異年齢交流会に招待したり、毎月の歌の会に参加して頂いている。大庭地域福祉施設連絡協議会を通じて地域との関わりを深めている。	行事を通しての交流や、ボランティア、地域の人と日常的に関わり関係を築いている。「歌の会」や「習字の会」のお知らせをして参加して貰ったり、週刊誌やバザーの品を届けてくれる人もいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	過去には、機会を見つけて認知症についての講演や寸劇を行ったことがあるが、今年度はできていない。検討課題の一つと考える。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において利用者状況や評価への取り組み状況等の報告を行い、委員より意見やアドバイスを受けており、できるだけケアに生かせるよう検討している。	事業所の活動や事例を報告し、行事への参加や、忌憚のない意見や助言を受け、運営に積極的に協力して貰っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にはほとんど出席を得ており、質問や相談をさせていただくよい機会になっている。そのほか疑問点や相談事はいつでも遠慮なくさせてもらっている。	運営推進会議や、日頃から家族の意見を伝えて相談する等連携して取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が具体的な身体拘束を正しく理解しており、玄関の施錠などはしていない。転倒転落のリスクの高い利用者に対しては、家族との協議の上で車イスのシートベルトやベットの柵を使用する事がある。	開設以来身体拘束をしない支援を目指し取り組んでいる。車椅子のシートベルトをすることがありその都度話し合いをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員は虐待について正しく理解しているが、虐待に発展しかねない状況が作られることを予防する意味で改めてマニュアルを確認し合った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、日常生活自立支援事業や成年後見制度の利用を検討すべき対象者がいないことから学ぶ機会を失っており、職員間でも理解にばらつきがある。検討を要する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者の責任において十分な説明を行い理解納得を得た上で契約を締結している。また介護保険法改訂に伴う変更等は文章でお知らせするとともに、必要に応じて口頭での説明も行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃直接伺った意見は直ちにケアに生かしたりL会(管理者、経営者)などで検討している。年数回の家族会に於いて忌憚のない意見をもらっている。	面会時や、敬老会や新年会の後に家族会を行い意見・要望を聞いている。応えられることは出来ることから対応している。	職員の異動もあったので、さらに積極的に声を掛け、事業所の課題を共有出来る関係作りをされることを望みたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員会の中で職員の意見を聞く機会を設けており、出された意見をL会で検討している。また、L会(管理者、経営者)での検討事項を職員にも報告し共有している。	管理者は日頃から意見、要望を聞くことに努めているが、管理者や代表者への要望を聞く為に職員アンケートを実施した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員が楽しく働くことが利用者の安定した生活につながると考えている。職員は休憩室での休憩や記録時間が確保されており、希望休や有給休暇も取りやすい環境にある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として年3回外部講師を招聘しての研修をおこなっている他、費用事業所負担による外部研修派遣の制度がある。新職員に対しては一定の研修期間を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小規模ケア連絡会、グループホーム部会に入会しており、都度職員を参加させている。職員はその機械に得た情報などをサービスの質の向上に生かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者、居室担当を中心に細やかな配慮を行うことで良好な関係作りに勤めている。入所後一定期間は時系列のケア記録により全職員で情報を共有し本人理解に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者(ケアマネ兼務)が家族の話をよく聞くことで良好な関係を築くよう勤めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者(ケアマネ兼務)サービスの利用を開始する段階で必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は日常的に、利用者において家事を手伝ってもらったり、行事の相談に乗ってもらったり、準備を一緒に行ったりして暮らしをともにする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	およそ毎月の行事には家族にも参加を呼びかけて一緒に楽しんだり手伝ってもらったりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の来訪があればおもてなしをし、再来いただけるよう支援している。家族において、以前の住まいにお連れしたり馴染みの美容院等に連れて行っていただいたりしている。	重度化に伴いこれまでの関係を継続するのは難しくなっているが、家族、兄弟、近隣の人の来訪があった時はお茶を入れ迎えている。家族の協力を得て馴染みの美容院に行く利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常的に利用者同士の関係の把握に勤めており、情報は共有し、食事やお茶の席を決めたり、利用者の余暇の過ごし方などに生かされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した方の面会に行くなど、必要に応じて相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的に利用者の思いや暮らし方の希望等を把握して日々のケアに生かしている。意思疎通が困難な利用者に関しては、居室担当が中心に本人本位に検討している。	利用者の好みやこれまでの暮らしぶりを知り、利用者を理解して思いの把握に努めている。利用者が答えやすい問いかけをし思いを引き出している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人に聞いても不確かなことは家族に確認したり、訪ねてこられた知人や、入所当初から付き合いのある職員に話を聞いたりして機会あるごとに生活歴や馴染みの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全職員はご利用者一人ひとりの1日の過ごし方や有する力、好きな事等の把握している。つぶやきや関わりの中で新たな発見があった場合は送りノートやケア会で報告し常に共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画はケア会に於いて全職員で検討して作成した案に、家族や関係者の意見やアイデアを盛り込んで現状に即したものにしている。	利用者、家族の希望や状態を考慮しながらケア会議で話し合いプランを作成している。プランに沿ってチェック項目を記載しモニタリングに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、看護記録等個別の記録がなされている。ケアの工夫や情報は送りノートの活用でより共有しやすくなっている。ケア会では全職員で個別の課題の検討を行ない実践に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所内でのレク活動に力をいれている。本来受診はご家族対応としているが嘱託医や町内の歯科医院などには職員での対応も行っている。必要があればご家族の宿泊にも対応できる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの来所により歌の会やフォークダンスの会をたのしまれているが、心身の機能低下とともに買い物や地域行事へお誘いしても参加されないことが多い。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望に従ってかかりつけ医を決定されている。受診の際に近況を書いたメモを渡したり専門医の受信を検討していただく様アドバイスするなど適切な医療を受けられるために支援している。	今迄と同じかかりつけ医や協力医に変更する人もいる。体調変化時は適切な医療が受けられるように医師に連絡し対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	契約している訪問看護師が定期的に健康観察に来ている。職員は必要に応じて相談しアドバイスをを受けたり、利用者の適切な受診につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換を密にし、一日でも早い退院に向けての共働を惜しまない。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要に応じ早い段階から意向を伺う機会を作っているが、今後必要になるであろうターミナルケアについて個々に具体的な議論を深めていきたい。	家族の意向を尊重し、かかりつけ医、医療機関等と連携して今年度初めての看取り支援をした。職員は勉強会をしたり情報を共有し、終末期の対応の仕方を話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年一回救急蘇生法と緊急時対応の研修を行い万が一に備えているが、実践力にばらつきがある。全職員が実践力を身につけるよう工夫する必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月一定の日を防災の日と定め、計画的に利用者を交えて話し合いや避難訓練を行っている。防災協力員の組織があり地域との協力体制が深まりつつある。	防災委員会の年間計画に基づき利用者と一緒に毎月取り組んでいる。委員会には近隣の委員も参加し地域との協力体制を築いている。過去の近隣の火災から職員のやるべきこと、対応の仕方を確認している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけを心がけている。	言葉使いなど自尊心を傷つけないように気を付けている。さりげないトイレ誘導を行い羞恥心に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員はコミュニケーションを大切にしており、利用者のつぶやきに耳を傾けている。質問の仕方を変えたり、間を置いて再度確認する等して本人の思いを引き出したり自己決定を促す工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望に沿った暮らしができるよう努力をしているが、認知症の進行に伴い希望の把握が困難な利用者が増え、対応に苦慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	時には衣料品や化粧品を一緒に買いに行ったり美容院へ行っていただいたり、身だしなみやおしゃれを楽しんでいただきたいが誘いしても応じられない。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	果物の皮むきや食材切り、盛り付け等共働して準備をしている。職員は利用者と一緒に食卓を囲み語らいながら食事をし、食器拭き等の片付けも共働している。	徐々に調理に参加できる利用者が減ってきているが、食器拭きやおやつ作りなど出来ることを一緒に行い楽しめる場面づくりをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養や食材のバランスを考えてあらかじめ作った献立により調理している。個々にあった量を提供し水分が不足がちな利用者には好きな飲み物を勧めたり、一緒に飲むなどして補水を促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを徹底している。個々の出来る力に合わせ、声掛けのみの場合もあるが、歯ブラシの他くるりなブラシ、スポンジブラシ等を使用し清潔に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員は個々の利用者の排泄パターンを把握しており、定時誘導や声かけを行ってできるだけトイレでの排泄を促している。	体調や気持を考慮して声を掛け、出来るだけトイレで排泄出来るように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	常に排便のチェックを行い必要であれば下剤の服用していただく。食事には食物繊維を多く取り入れ、便秘がちな方には毎朝ヨーグルトを食べていただいている。体操や運動も毎日行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望に合わせて入浴していただくが、希望が無くても一日おきを目安に声をかけて入浴していただいている。菖蒲湯やよもぎ湯ゆず風呂等季節に合わせたお風呂を楽しんでいただいている。	入浴時間や湯加減等利用者の希望を確認しながら一人ひとりに沿った支援をしている。入浴のない日曜日には足浴をして関わっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者はそれぞれの個室で自由にくつろいでいる。できるだけ眠剤に頼らない安眠を提供できるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は個々の内服薬や外用薬についての用法や副作用について把握している。症状の変化があった場合はかかりつけ医に相談するなどして支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お礼の言葉や品物を渡し、やりがいを感じられるよう支援している。日々のレクやボランティアの来所によるイベントを楽しんだり散歩や外気浴で気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る力に合わせて買い物や散歩に出かけていただけるよう声かけをしているが、最近多くの方が閉じこもりがちになってきた。今年度は個別外出支援行事としてエンジョイサマーと紅葉狩りを実施した。	戸外に出たがらない利用者もいるが、天気の良い日はなるべく周りを散歩したり買い物に出かけるようにしている。家族の協力で外食に出掛ける利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の力に応じてお金を所持したり使えるように支援しているが、現在9名中7名はお金の所持や使用に関心がない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたり取次を行う方もある。またダイヤルできなかつたり、難聴で聞き取りにくかつたりする方にはそれぞれに応じた支援を行っている。手紙のやり取りはあまりない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員はいつも掃除を徹底し、気持ちよく過ごせるように努力をしている。季節の花や植物を飾ったりするが、異食行為のある利用者が有りテーブルにはおけない。主に壁面の飾りに季節感を持たせるよう配慮している。	利用者の作品の習字等を壁に貼り、季節行事の飾り物をしている。安全面に配慮し、ソファは車椅子、歩行器が通りやすいように配置している。新聞や雑誌等見たい時にいつでも見られるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファやテーブルが有り利用者にはそれぞれ気に入った場所がある。時には気のあった方同士でお茶会をされることもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具や家族と一緒にお茶が飲めるようにテーブルが置いてあつたりする。機能の低下に伴ってベッド周辺を片付けさせていただく場合もあるが、危険のない限り置いていただいている。	家族写真や好きな動物の写真等を飾り、運動器具を置いたり、家族との団欒が楽しめるように丸テーブルを置くなど、利用者に合わせて環境作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は、明るく広々としており、段差がない。トイレや浴室はじめ廊下にも手すりが有る。居室は個々の動線に合わせた手すりの設置も行い安全に配慮している。		